

一般質問通告一覧

平成30年第3回島田市議会定例会
平成30年9月10日・11日・12日本会議

島 田 市 議 会

◎ 発言順位

(頁)

平成30年9月10日(月)

1番	横田川 真人	議員(一問一答)	-----	1
18番	八木 伸雄	議員(一問一答)	-----	2
11番	桜井 洋子	議員(一問一答)	-----	3
17番	山本 孝夫	議員(一問一答)	-----	4
2番	大関 衣世	議員(一問一答)	-----	5
13番	杉野 直樹	議員(一問一答)	-----	6

平成30年9月11日(火)

12番	佐野 義晴	議員(一問一答)	-----	7
4番	河村 晴夫	議員(一問一答)	-----	8
20番	平松 吉祝	議員(一問一答)	-----	9
10番	曾根 嘉明	議員(一問一答)	-----	10
6番	伊藤 孝	議員(一問一答)	-----	11
8番	藤本 善男	議員(一問一答)	-----	12

平成30年9月12日(水)

7番	横山 香理	議員(一問一答)	-----	13
5番	齊藤 和人	議員(一問一答)	-----	14
19番	清水 唯史	議員(一問一答)	-----	15
16番	森 伸一	議員(一問一答)	-----	16
9番	村田 千鶴子	議員(一問一答)	-----	17
3番	大村 泰史	議員(一問一答)	-----	18

○一般質問の質問時間の目安

質問者	1人目	2人目	3人目	4人目	5人目	6人目
質問時間	9:30 ~ 10:20	10:20 ~ 11:10	11:10 ~ 12:00	13:00 ~ 13:50	13:50 ~ 14:40	14:50 ~ 15:40

時間はあくまでも目安です。

一問一答方式は持ち時間50分です。

議員により質問時間は変動しますので、あしからず御了承ください。

1. 1番 横田川 真人 議員 (一問一答)

1. 防災について

東海地震が予測されてから早30年以上が経っている。幸いにして予測されている大地震は起きていないが、全国では熊本・東日本・中越・阪神など、多くの地で災害が起きている。静岡県は他の都道府県と比べると地震に対する意識は高い方であるが、そろそろ油断というものが感じられる。そこで、以下質問する。

- (1) 各避難所によって夏の防災訓練のやり方は違いがあると思うが、実際に地震が起こった場合の想定について
 - ① 近くの公会堂などの避難場所としての利用はどうか。
 - ② 家ではなく学校や勤務先にいるときの避難場所の想定はどうか。
- (2) 備蓄食料の栄養バランスについて
 - ① アルファ米・パン・カップ麺などでは補いきれないビタミン、ミネラル及びたんぱく質をどう補うのか。
 - ② 水分の確保も大切である。自動販売機の非常時の利用を促進しないか。
- (3) 風水害に対する訓練について
 - ① 風、大雨及び洪水時に、市民はどのように行動するべきかについて、周知しているか。
 - ② 風水害を想定した訓練はできるか。
- (4) 震災時の瓦れきなどの撤去について
 - ① 個人の財産であるとして、撤去することが難しいものはどのようにするか。
 - ② 土砂など、撤去することが可能なものを迅速に撤去する方法はあるか。
- (5) 市民への防災意識啓発について
 - ① 市民意識調査などの実施は考えているか。
 - ② 各家庭での備蓄食料調査は考えているか。
- (6) いざというときの外部支援について
 - ① ボランティアの受け入れ態勢はどうか。
 - ② 他自治体との連携はどうか。
 - ③ 企業との連携はどうか。

2. 18番 八木伸雄 議員 (一問一答)

1. 大井川の水を守れ

ことしの夏の異常な高温は、気象庁から連日のように、命の危険がある高温になると予報が出された。

当局は、これまで議会における議員からの小・中学校へのエアコン設置の提言に対し、財源を理由に前向きな答弁がされなかったが、急遽、全校に設置を決めた。それほどことしの夏の高温は予想を超えたものであり、異常なほど厳しいものであった。また、西日本の豪雨など、異常な気象をもたらした決定的要因はまだ定かではないが、自然の恐ろしさを痛感するとともに、人類がそうした自然環境の悪化を自ら招いているのではないかと非常に憂慮するところである。

そして、それらは他人事ではなく、今、当市においても将来に禍根を残す懸念があるかもしれないリニア中央新幹線の工事が開始されようとしている。

大井川の水は流域住民の命の源と言っても過言ではない。子々孫々にわたり影響のあるこの工事に対する市の見解を以下質問する。

(1) 大井川の水利用の実態について

- ① 現在の大井川の渇水期における流量の実態について、流量調査箇所とそれぞれの流量の数値を伺う。
- ② 大井川の水利用の用途別利用実態を伺う。
- ③ 大井川の水を利用している自治体、企業、団体等それぞれの利用状況を伺う。
- ④ 今後の水利用量の推移についての見解を伺う。
- ⑤ 大井川の水量の減少によるお茶の品質への影響に対する認識はどうか。

(2) リニア中央新幹線の南アルプストンネル工事による大井川への影響について

- ① リニア中央新幹線の工事の計画を当市が知った経緯を伺う。
- ② 大井川水資源検討委員会の設置された経緯と目的は何か。
- ③ 大井川水資源検討委員会の協議内容とそれに対する市の見解を伺う。
- ④ 大井川水資源検討委員会の協議内容とそれに対する利用者である自治体、企業、団体の見解はどうか。また、それら団体に対する市の対応はどうか。
- ⑤ 工事による発生土の河川への流入による水質汚染や河川、ダムへの土砂堆積の影響はないか。

(3) リニア中央新幹線が運行された場合の県及び市の経済活動に対する影響について

- ① 京浜地区及び近畿地区からの当市への経済や観光などへの影響はあるか。

3. 11番 桜井洋子 議員 (一問一答)

1. 保育環境整備について

平成27年4月から子ども・子育て支援新制度が始まり、待機児童を解消し、希望する全ての子どもたちを受け入れるための保育環境整備が進められてきた。市の待機児童は4月1日現在でゼロとのことだが、各保育園では、保育士確保に苦慮している状況が伺える。充実を求め以下伺う。

- (1) 7月1日現在、市内の公立保育園2園、民間保育園15園と認定こども園(保育園部)5カ所の入園の実態について
 - ① 定員と入園実数はどうか。
 - ② ゼロ歳児から5歳児の年齢別での定員と入園実数はどうか。
- (2) 待機児童は多くがゼロ歳児から2歳児に出ていたが、小規模保育、家庭的保育(保育ママ)、事業所内保育での対応が進んできた。それぞれの定員と入園実数はどうか。
- (3) 待機児童数は4月1日現在でゼロということだが、現在の待機児童の状況はどうか。
- (4) 行き届いた保育の実施のため、保育士確保の課題について
 - ① 民間保育園における保育士確保への市としての対応策はどうか。
 - ② 公立の第一保育園・第三保育園では、臨時保育士が半数近くを占める。正規保育士をふやすことを求めるがどうか。

2. 平和行政について

昨年7月、122カ国の賛成で核兵器禁止条約が国連で採択された。また、国際NGOの核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)がノーベル平和賞を受賞するなど、核兵器廃絶の運動が大きく前進している。しかし、唯一の被爆国である日本政府の態度は、条約批准に背を向けている。そのような中、この夏も島田市平和都市宣言を生かした、平和への取り組みが進められた。以下伺う。

- (1) 島田市平和のつどいとして開催された、島田空襲被爆者慰霊のつどい、平和祈念式典、平和祈念事業展示の実績と課題は何か。
- (2) 島田空襲は、原爆模擬爆弾の投下訓練であり、多くの犠牲者を出した。戦争の悲惨さを語り継ぎ、核兵器も戦争もない平和な未来を若い世代に手渡していく取り組みが大事だ。平和推進事業として、広島や長崎の平和祈念式典への中学生の派遣事業を新たに設けるべきではないか。

4. 17番 山本孝夫 議員 (一問一答)

1. FM島田の課題と今後の活用について

FM島田はコミュニティFMとして開局し10年が経過した。当市と近隣地区の一部への情報提供の一手段として活用されている。また、災害時の情報伝達ツールとしての活用は大いに期待される所であり、これからもこの地域の生活情報を身近に提供する放送局として活躍を願っている。

今回はこれからも継続して放送していくため、現在の課題を挙げ、今後の活用のあり方について以下質問する。

- (1) 現在の経営状況を株主としてどのように捉えているか。
- (2) 放送広告収入の推移を見てどのように考えているか。
- (3) 災害時の役割はどのように考えているか。
- (4) 今後の課題は何か。
- (5) 課題解決のため、これまでに市は何をしてきたか。
- (6) 課題解決のため、これから市は何をするか。

5. 2番 大関衣世 議員 (一問一答)

1. 自転車保険加入への促進について

近年、自転車と歩行者の事故で高額賠償請求事例が相次ぐ中、自転車保険への加入を義務づける自治体がふえている。ことし6月に政府が発表した自転車活用推進法の推進計画の中では、法律による義務づけについて検討を進めると明記している。自転車は通勤、通学、買い物等、日常活用する乗り物として欠かせず、路線バスの廃止等の公共交通サービスの環境が厳しさを増す中で、これからますます利用者が増加すると予想される移動手段である。安心、安全な地域社会をつくるために自転車保険への加入促進は重要な課題と考え、以下伺う。

- (1) 近年の自転車事故件数等の現状はどうか。
- (2) 高額賠償請求事例はあったか。
- (3) 自転車保険加入促進について今後の計画はどうか。

2. 高齢者のフレイル対策について

高齢化が深刻な問題となり、医療機関の受診者や、要介護者をふやさないようにする仕組みは重要な課題と考える。誰もが陥りやすいフレイルへの対策は2025年を迎える前に十分な成果を出すことができると考え、以下伺う。

- (1) 高齢者のフレイルとはどのようなことと捉えているか。
- (2) フレイルと思われる高齢者はどの程度いるか。
- (3) 現在行われているフレイル対策は何か。また、その効果はどうか。
- (4) 今後の計画はあるか。

3. 当市の障害者雇用について

8月25日付の静岡新聞の報道によれば、県内の障害者雇用において厚生労働省の指針を順守しない採用があり、当市で4人が障害者手帳等を未確認で採用されたようだ。このことが事実であれば、採用されるべき4人の障害者の雇用が奪われたことになり、絶対にあってはならないことと思う。今後の障害者雇用のためにも重要な視点であると考え、以下伺う。

- (1) 障害者雇用数の現状はどうか。
- (2) どのような方法で採用していたか。
- (3) 今回の調査はどのような内容か。
- (4) 今後の対策はどのような内容か。
- (5) 指針に沿わない採用者の今後の対応はどうか。

6. 13番 杉野直樹 議員 (一問一答)

1. 当市における児童虐待防止対策について

近年、児童虐待による痛ましい死亡事件が各地で発生している。当市においても、さまざまな対策を講じてはいると思われるが、そのような痛ましい事件が起こる可能性がないとも言いきれないことから、当市における児童虐待を防ぐための取り組みを以下伺う。

- (1) 昨年度、当市において児童虐待に関する家庭児童相談室への相談は何件あったか。
- (2) 昨年度、当市において発生した児童虐待事件は何件か。
- (3) 児童虐待防止のための市独自の取り組みは何かあるか。

2. 当市における医療ツーリズムの可能性について

ツーリズムの形はさまざま、観光名所をめぐることだけがツーリズムではなく、企業を視察したり芸術作品を鑑賞・制作する、農業を体験する等、多種多様になってきている。そのような中、外国人を対象として医療サービスをツーリズムとした事業を展開しているところがある。そこで、当市における医療ツーリズムの可能性について以下伺う。

- (1) 市民病院において、外国人の健康診断をツーリズムとして受け入れる場合の課題は何か。
- (2) これまで医療サービスを受けることを目的として日本に入国した外国人を市民病院で受け入れたことはあるか。

7. 12番 佐野義晴 議員 (一問一答)

1. 将来を見据えたまちづくりや地域ごとのまちづくりについて

我が国は少子高齢化が進み、本格的な人口減少社会に突入し、それにより各自治体とも元気を失い気味である。

それをはね返すため、各市町とも積極的なまちおこし施策、例えば定住者増や観光事業等の手を打つも、既に相打ちの様相となっている。

しかし、それであっても休むことはままならず、そのままであったならば、いずれ沈没しかねない。よって、何としても前に進める施策の展開は必要不可欠である。

以上を踏まえ、以下質問する。

- (1) 人口減少時代に合ったまちづくりや地域ごとのまちづくりの進め方を伺う。
- (2) 移住の受け皿とされる日本版C C R C構想（生涯活躍のまち構想）を地域づくりに生かせないか。
- (3) 経済活動の活性化を促すための観光施策とその進め方について
 - ① 観光総合戦略の全体像を伺う。
 - ② 観光産業の振興により、にぎわいを取り戻し、市の主要な財源である税込額維持に向けての考え方を伺う。

8. 4番 河村晴夫 議員 (一問一答)

1. 地域包括ケアシステムについて

日本の65歳以上の高齢者人口は、2025年には3,657万人となり、2042年には3,878万人とピークを迎える予測を厚生労働省が発表している。

高齢者の増加とともに医療や介護、福祉といった専門的サービスも継続的に重要となり、現在進めている地域包括ケアシステムの構築を実現する動きとなっている。また、当市の高齢者保健福祉計画については、3年間の周期で2020年までは第8次となる。

その施策として、「生涯を通じて誰もが生きがいを持ち安心して暮らせるまちづくり」を基本方針とし、今後3年間で「地域包括ケアシステムの構築と深化にむけて」を基本に、5つの目標を掲げ基本施策を提案している。そこで以下伺う。

(1) 第8次高齢者保健福祉計画について

① 地域包括ケアシステムの構築と深化について

ア 第7次高齢者保健福祉計画の「地域包括ケアシステムの構築」との違いは何か。

イ 第7次高齢者保健福祉計画での「地域包括ケアシステムの構築」は、ほぼ完結したシステムを構築していないか。

② 地域包括ケアシステムの実現が第10次の2025年となっているが、この間の介護需要にはどのように対処していくか。

③ 基本目標1の自立した生活と健康寿命の延伸について

ア 予防を重点にしまトレを介護予防の柱に推進している。厚生労働省では2040年までに健康寿命を3年以上延伸と目標を掲げ、健康無関心層を含めた予防、健康づくりの推進を進めているが、当市は具体的な数値を掲げているか。

イ 住民一人一人が高齢者となる前に自身が生涯にわたる社会的な家族環境、地域特性、公的介護保険サービスの見通しを持ちつつ、経済的な課題に対する備えを構築することも不可欠となる。要介護者の介護度が重度化することにより、費用が増加するリスク、介護の質の向上、重度化防止の施策も必要となるがどう考えるか。

④ 基本目標2の生活支援体制の整備について

ア コミュニティバス運行事業があるが取り扱いが大きすぎるのではないか。そもそも生活支援サービスの中には外出（移送・移動・買い物・通院・交流参加）を支援する項目があるが、当市では具体的な対応はしないか。

イ 後見や資産管理というサービスはしないか。

⑤ 基本目標3の安心して暮らせる環境整備の推進について

ア できる限り自宅で生活したいが、一人暮らしの高齢者で介助の必要性が高くなると、自宅から介護施設やケア付き住宅で介護を希望する人が増加する傾向がある。当市は十分な対応ができるか。

イ これからの住宅改修で取り組める支援策はあるか。

(2) 高齢者の介護保険サービスは多くあるが、65歳以下の支援について

① 重症心身障害児などの重度の障害児であって、児童発達支援等の障害児通所支援を受けるために外出することが著しく困難な障害児に対する支援はあるか。

② 市内の保育園で障害児が在園している場合、発達支援に関する専門的な支援が求められているが、どのような対策をしているか。

③ 医療的ケアを要する障害児に対する支援はどのような対策をしているか。

④ 障害者の就労移行支援、就労定着支援はどのように実施しているか。

⑤ 障害者の自立支援はどのように実施しているか。

9. 20番 平松吉祝 議員 (一問一答)

1. 島田市営球場の未来について

今夏、全国高等学校野球選手権大会は第100回記念として大いに盛り上がり日本中に感動と夢を与えた。島田商業高校の静岡大会での決勝戦進出も、当市に大きな夢と希望をもたらし、久々に島田が湧いた夏となった。島田第一中学校野球部も県代表として広島県で開催された第40回全国中学校軟式野球大会に出場した。島田市営球場においても今夏、高校野球選手権静岡大会や、県下32チームのスポーツ少年団による島田ライオンズクラブ旗争奪学童選抜野球大会が行われ当市のスポーツ少年団が優勝を勝ち取るなど、大いに盛り上がったところである。スポーツがもたらす教育効果、経済効果ははかり知れないものがあり、その環境の整備、充実は行政の責務である。そこで、島田市営球場の未来について以下伺う。

- (1) 島田市営球場の未来像をどのように考えているか。
- (2) 電光掲示板取付事業の実現を早期に行うべきではないか。
- (3) 外野を拡張し、より多くの団体が利用でき、経済効果の上がる施設にすべきではないか。

2. 2019年10月に開催される島田大祭について

全国三奇祭の一つである島田大祭帯まつり。次回開催は2019年10月で、関係者は既に動き始めているが、少子高齢化の波は祭りにもあらわれ、その保存や伝承にも影響が出ている。そこで、次期大祭について以下伺う。

- (1) 市は大祭をどのように捉え、考えているか。
- (2) 大祭への予算はどうなっているか。

10. 10番 曾根嘉明 議員 (一問一答)

1. 人口減少問題について

総務省が発表したことし1月1日時点の国内の日本人の人口は前年比37万4,055人減の1億2,520万9,603人となり、9年連続のマイナスとなったとの報道があった。また、平成29年度の出生数は94万8,396人で、2年連続で100万人割れとなっており、国立社会保障・人口問題研究所は2045年の静岡県の将来推計人口は294万人と予想され、少子化と人口減少は深刻な問題と感じる。

当市においても、その対応として、第2次島田市総合計画の中で、平成27年10月に策定した島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略と整合をとりながら2060年の目標人口に設定した8万人を目指した、人口減少問題に対応する施策に取り組み、市政運営の方向性を大きく打ち出して、真に必要な施策・事業を選択し、量から質へ転換、すなわち「縮充」という考え方で進めようとしている。今後、人口減少と少子高齢化が予想以上に進んでいく中では、40年後の人口ビジョンでなく20年後のまちづくりと人口ビジョンを策定すべきと思ひ、以下質問する。

- (1) 平成27～29年度の人口推移について伺う。
- (2) 20年後の当市の人口バランスをどのように考えるか。
- (3) 移住・定住施策のどちらに重点を置くか。
- (4) 子育て世代の定住を促すには働く場所の確保が重要となるが、その施策について伺う。
- (5) 第2次島田市総合計画に「コンパクト+ネットワークの考えに基づくまちづくりが必要」とあるが、どのような考えか。
- (6) 公共下水道を拡大する計画について
 - ① 人口が減少する中での拡大する目的は何か。
 - ② 総事業費は幾らか。
- (7) 高齢化が加速する市北部山間地には地域コミュニティを維持するためにどのような支援を行うか。

11. 6番 伊藤 孝 議員 (一問一答)

1. 自然災害対策や暑さ対策について

本年7月23日、連日の猛暑を受けて気象庁は異例の会見を開き、「40度前後の暑さはこれまで経験したことのない、命に危険があるような暑さ、一つの災害と認識している」と伝えた。地球温暖化による異常気象とも言われ、高温や豪雨が頻発している中で、幸いにも当市においては被害が少なく済んでいるが、いつ大きな被害が出るかわからない状況である。地震における備えや心構えはできてきているのではないかと思うが、それ以外の災害に対する対策や備えが不十分に思えるため、以下質問する。

(1) 豪雨災害対応について

- ① 河川氾濫防止対策はどのようになっているか。
- ② 急傾斜地崩壊危険箇所の対策はどのようになっているか。
- ③ 避難指示等の情報伝達はどのようになっているか。
- ④ 避難所の安全性はどのようになっているか。

(2) 暑さ対策について

- ① 小・中学校の体育館の暑さ対策はどのようにするか。
- ② 中学校において部活動を行う場所の暑さ対策はどのようにするか。

2. 空港の活用について

昨年度末、富士山静岡空港特定運営事業等優先交渉権者として三菱地所・東急電鉄グループが選定された。

蓬莱橋897.4茶屋、新東名島田金谷インターチェンジ周辺の賑わい交流拠点施設、旧金谷中学校跡地などの成功には集客が課題となり、空港とともに盛り上げていく必要があると思う。連携をどのように行っていくか、以下質問する。

(1) 優先交渉権者とのかかわりについて

- ① 今後、市との連携はどのような予定か。
- ② 今後、商工団体と優先交渉権者との連携は行うか。

(2) 利用促進策について

- ① 利用策の現状はどうか。
- ② 市職員の公務利用はどのような状況か。

12. 8番 藤本善男 議員 (一問一答)

1. 当市における住民窓口業務のあり方について

当市には住民が手続きを行う窓口が多数あり、行政と市民が接する窓口の対応は、市民満足度向上のためにも重要な場所である。

その一方で、行政は効率的な運営を行う必要もあり、市民満足度向上と効率的運営を両立するためには、さまざまな工夫が必要であると考えます。

そこで、当市の窓口業務のあり方について、以下伺う。

- (1) 当市における主な住民窓口の種類と、年間の利用者数はどの程度あるか。
- (2) 住民窓口の市民満足度向上のために、これまでどのような取り組みを行ってきたか。また、市民の評価はどうか。
- (3) 窓口業務効率化のための取り組みはどのようなものがあるか。また、業務の効率化は進んでいるか。

2. 地域産業の振興について

地方創生のために必要不可欠なものとして、地域産業の発展が求められており、当市でも地方創生のための総合戦略や具体的な各種の産業支援策が講じられている。

より実効性のある産業支援策を期待し、以下伺う。

(1) 各種産業への支援策について

- ① 商工業の活性化支援策として、中小企業・小規模企業振興条例が制定されたが、本年度の具体的な取り組みはどうか。
- ② 市が行っている各種事業において、地元調達を意識した事業発注が行われているが、これまでの取り組みはどのような成果を上げているか。

(2) 企業誘致、産業拠点整備などの状況について

- ① 企業誘致のための活動状況及び誘致実績はどうか。
- ② 農業振興に対する支援として期待される新東名島田金谷インターチェンジ周辺の賑わい交流拠点施設の事業進捗はどのような状況か。

13. 7番 横山香理 議員 (一問一答)

1. 子育て世代包括支援センター「てくてく」と地域子育て支援センターの連携について

当市では、子育て世代包括支援センター「てくてく」を初め、保育園に併設されている地域子育て支援センターや、育児・子育てのサービスを受けたい人と提供したい人が会員となり相互に援助を行うファミリー・サポート・センター、さまざまな子育て支援ボランティアなどが存在し、当市の大切な宝物である子供たちの子育てを一生懸命応援している。また、今年度4月からは産後ケア事業やしまいくサポートファイルの配布も始まり、よりきめ細かな子育て支援に取り組んでいる。これらの取り組みについて、子育て世代包括支援センター「てくてく」と地域子育て支援センターがお互いにどう連携し、情報等の共有化を図っているか。また、子供たちの健やかな成長につなげているか、以下質問する。

- (1) 子育て世代包括支援センター「てくてく」の目的と役割を伺う。
- (2) 地域子育て支援センターの目的と役割を伺う。
- (3) 今年度4月から始まった産後ケア事業の概要を伺う。
- (4) 今年度4月から配布を行っている、しまいくサポートファイルの取り組み状況を伺う。

2. 夢育・地育推進事業について

現在、初倉地区内において、子供の夢や地域愛を育む夢育・地育推進事業に取り組んでいる。中学生においては希望者が自分の出身小学校に出向いて、朝のあいさつ運動を行ったり、今年度はしずおか寺子屋で小学生に勉強を教えるといったことも行われている。

今後、夢育・地育推進事業をどのように展開させ発展させていくのか、その方向性について、以下質問する。

- (1) 夢育・地育推進事業の目的を伺う。
- (2) 具体的な取り組みについて伺う。

14. 5番 齊藤和人 議員 (一問一答)

1. 島田市地域防災計画について

ことは、台風12号の影響で西日本が大変な被害を受けた。台風13号でも県内で被害があった。例年であればこれからが台風シーズンである。当市は古来より大井川の氾濫によりたびたび大きな被害を受けてきた。現在では上流にダムが建設され、大水害は避けられてきている。また、牛尾山の開削工事も終了し、大井川の流れを制御することで、より安全が確保されるものと思われる。しかしながら、今日の地球規模の異常気象を考えると、将来的に安全かと言え、そう言いきれないようにも思われる。

西日本豪雨災害では、ハザードマップで示された地域で災害が発生している。最近では、時間雨量100ミリという発表を聞くことがよくある。

また、当市では4月に島田市地域防災計画が取りまとめられ、8月17日付で洪水ハザードマップが更新されている。それらを踏まえて、以下質問する。

(1) 島田市洪水ハザードマップについて

- ① 流域が大きい大井川本流においては、流域全体で2日間で550ミリの雨量を想定しているとあるが、想定より雨量が多い場合は水害が早く起こると考えなければいけないということか。
- ② 流域の比較的小さい河川では、時間雨量を90ミリと想定しているが、時間雨量が100ミリであればすぐにでも水害を想定しなければいけないのか。
- ③ 国土交通省中部地方整備局が公開する大井川洪水浸水想定区域図(参考資料)の中で「危機管理型ハード対策をおおむね5年間で実施する」とあるが、具体的には何か。

(2) 避難準備、避難勧告及び避難指示について

- ① 避難情報の広報はどのように行うか。
- ② 避難場所への誘導はどのように行うか。
- ③ 自主防災会との打ち合わせはできているか。
- ④ 小・中学生が授業中などの場合、保護者や自主防災会との連絡は確保されているか。
- ⑤ 高校生が授業中などの場合、市外から通学している生徒には何か対策はとるのか。

(3) 災害後の復旧計画について

- ① ボランティアの受け入れなどの計画はあるか。
- ② 災害により出た廃棄物の一時保管場所はあるか。
- ③ 事業所に対する事業継続計画(BCP)は策定されているか。

15. 19番 清水唯史 議員 (一問一答)

1. 平成30年7月豪雨災害を教訓とした当市の防災対策について

本年6月末より7月9日にかけて西日本を中心に広い範囲で記録的な大雨となり、各地で大雨特別警報が発令された。この豪雨により多くの地域で河川の氾濫や浸水害、土砂災害が発生し、死傷者数が200人を超えるなど甚大な災害となり、気象庁は「平成30年7月豪雨」と命名した。私は7月22日に被災地である広島県広島市安佐北区と、8月8～10日にかけて広島県三原市の災害ボランティアに参加するとともに三原市議会を訪問し、その被害状況と災害対応について調査してきた。テレビなどでは岡山県倉敷市真備町の浸水被害が大きく報道されていたが、広島県安佐北区では芸備線の流失や住宅地への土砂の流入、三原市では市の中心を流れる沼田川やその支流の溢水、堤防決壊により多くの住宅や工場、ショッピングセンター、防災の拠点になるべき消防署やコミュニティセンターなどが浸水被害を受けるとともに、尊い人命も失われている。三原市本郷町舟木地区で床下の土砂撤去で伺ったお宅においても90歳の女性が住居1階で被災し亡くなっていることを聞き、作業後ボランティア全員で黙祷をささげた。

今回の広島市、三原市の被災地における災害状況や被災者からの状況談話を教訓に、当市において策定されている島田市地域防災計画、特に風水害への対応について、計画が構成されている発災前、発災後、復旧・復興期の各段階に沿って以下質問する。

(1) 発災前の予防計画について

- ① 8月26日に実施された総合防災訓練は南海トラフを震源域とする大規模震災を想定しての訓練であるが、風水害による防災対策の啓発活動はどうか。
- ② 今回の水害被災地域は各市町で作成したハザードマップに一致して被災していると聞かすが、どのように把握しているか。
- ③ 8月末時点で、今回の各地の水害発生要因を検証しているか。
- ④ 市内における降水量把握の方法と各河川の水位把握方法はどうか。

(2) 発災後として、発災時の災害発生予測・把握について

- ① 注意報・警報の種類と市民への伝達方法はどのように定めているか。
- ② 避難状況の把握はどのように実施するか。
- ③ 三原市では消防署が水没した事例を見た。市内の防災施設の被害予測はしているか。

(3) 復旧・復興期の対応について

- ① 今回の被災自治体への支援実績はどうか。
- ② 被災地での社会福祉協議会の活動を見てきたが、社会福祉協議会の役割は何か。
- ③ 被災者対応について
 - ア 当市の支援物資の受け入れから避難所、被災者への物資配布体制はどうか。
 - イ 生活支援制度の広報をどのように計画しているか。
- ④ 災害廃棄物の対策について
 - ア 集積場所の計画はあるか。
 - イ 災害廃棄物の分別、処理に対する業者との協定はどうか。
 - ウ 自分の自治体で発生した災害廃棄物は自分の自治体で処理することが基本である。そのために必要な最終処分場の見通しはどうか。

16. 16番 森 伸 一 議員 (一問一答)

1. リニア中央新幹線建設工事について

6月20日、静岡市はJR東海と中央新幹線（南アルプストンネル静岡工区内）の建設と地域振興に関する基本合意書を締結し、8月2日には静岡市を除いた当市など大井川流域8市2町と11利水団体と県で大井川利水関係協議会を発足し、JR東海との交渉の窓口を一本化した。これらに関して以下伺う。

- (1) 大井川利水関係協議会の中での当市の立場や今後の協議日程はどのようになっているか。
- (2) 水の全量回復と水質保全是もちろんだが、それ以外にどのような要望をJR東海との交渉で出そうと考えているか。
- (3) 今まで静岡市がJR東海に要望していた内容や姿勢をどのように評価しているか。

2. 市民も参加した本通り周辺のまちづくりについて

私は、昨年の市議会6月定例会で島田駅周辺のまちづくりについて質問した。その後も空き家対策なども含め同僚議員が質問している。また、ことしの7月と8月には島田市都市計画マスタープラン等まちづくり市民会議が開催された。そこで、本通り周辺のまちづくりについて以下伺う。

- (1) 本通六丁目以东の本通り周辺のまちづくりについて、区画整理事業は既に終わり、これからどうなるのか心配している住民も多い。市としてどのような方針を考えているか。
- (2) 今年度中に空き家等対策計画を作成すると聞いたが、どこまで進んだか。
- (3) 中心市街地活性化基本計画について
 - ① 中心市街地活性化基本計画は現在策定中とのことだが、進捗状況はどうか。
 - ② 策定のためにつくられた策定支援協議会からはどのような意見が出て、どのように反映しようとしているか。
- (4) 都市計画マスタープランについて
 - ① 平成21年作成の都市計画マスタープランでは中心市街地の継続的な整備がうたわれているが、この10年間でどのように検証したか。
 - ② 今回のマスタープランの策定スケジュール及び策定体制はどのようになっているか。

17. 9番 村田 千鶴子 議員 (一問一答)

1. 高齢者福祉施策による安心・健康なまちづくりについて

当市は平成29年12月末日で、総人口の99,247人に対し高齢者人口は29,804人、高齢化率は30.03%と一般に超高齢社会と言われる21%を大きく上回っている。

高齢化人口の増加に伴い、国は、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるように、また、支える家族への支援策をと、地域包括ケアシステムの構築を推進しており、当市もさまざまな課題に向けて取り組んでいる。

私は、特に高齢化の進行に伴って認知症高齢者の数は増加傾向にあり、認知症対策は喫緊の課題であると言われていること、また、介護給付費や医療費の増加を抑制するために、元気な高齢者への移動手段の確保も重要だと考える。以上の観点から、当局の所見を以下伺う。

(1) 認知症対策に向けたハード・ソフトの両面支援について

① 当市では認知症対策にどのように取り組んでいるか。

② 見守り体制の整備について

ア 高齢者見守りネットワークの現状・課題はどうか。

イ 徘徊高齢者への対応はどうか。

(2) 高齢者の移動手段でもあるコミュニティバスへの助成について

① 平成28年4月から、コミュニティバスの運行の見直しの中で、運賃も200円となった。総人口の3割を超える高齢者に対し、助成の考えはないか。

18. 3番 大村泰史 議員 (一問一答)

1. 業務委託について

先般の一般質問の折、増加傾向にある委託料について質問をし、当市における業務委託については、適正に執行されているものと考えているとの答弁であったが、近年の予算に占める委託料の割合の推移が10%台から15%に届く状況であり件数についても700件近くとのことで、業務委託の今後の見通しについても、効率的な行財政運営を進める観点から、外部委託の推進を検討していくとのことであった。私としては業務委託の必要性は理解しているが業務委託が経済的・効率的かつ有効に活用され、適切な評価基準により評価されることが望ましいと考え、再度、以下伺う。

- (1) 当市における高度な専門知識や技能を必要とする業務とはどのようなものか。
- (2) 委託効果の評価方法は具体的にはどのようなものか。
- (3) 業務委託が適正に履行されたことをどのように確認しているか。
- (4) 市の地元企業優先発注等に係る実施方針とはどのようなものか。
- (5) 委託効果の検証を制度化する考えはないか。
- (6) 前例を踏襲する形で業務委託を行っている状況は発生していないか。

2. 子供への教育活動について

当市における子供たちに対するさまざまな取り組みとして夢育・地育推進事業について先般話を聞いた。さまざまな体験は子供たちの成長に大切だと思い、以下伺う。

- (1) 夢育・地育推進事業の取り組み状況はどのようなものか。
- (2) 豊かな自然を生かした体験活動の取り組み状況はどのようなものか。
- (3) 子供たちの活動場所として、市内の公園整備状況をどのように捉えているか。
- (4) 子供たちの活動場所として、市内の森林整備状況をどのように捉えているか。